

# 第四次実施計画事業シート

新規・継続  継続  主要事業  ○ 事業コード 2060102

➔ 【継続】の場合の区分 継続

部等名	課等名	班等名
総務部	秘書広報課	秘書広報班

事業(予算)名	平和施策事業							
総合計画体系	施策の大綱	第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさや愛を育むまち						
	施策	施策6 平和・人権への取組の推進						
	施策の展開	(1) 平和・人権意識の向上						
予算科目	会計	一般	款	2	項	1	目	3
関連計画・根拠法令等	参考「非核平和都市宣言に関する決議」昭和59年9月22日可決							
事業期間	開始年度	開始する理由			終了予定年度	終了する理由		
	不明				—			

事業の概要	現状(課題・ニーズ)	戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代へ語り継ぐ機会を提供し平和意識の向上を図る。						
	対象(誰・何を)	市民その他						
	事業内容(課題・ニーズの解決策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広島・長崎の原爆投下時期に合わせ、市内公共施設において原爆写真展を行う。</li> <li>・終戦の8月に合わせ、平和映画会を行う。</li> <li>・市内中学生を被爆地長崎市に派遣して被爆の実相並びに平和の尊さなどを学習し、広く伝える。</li> <li>・平和作文コンクールを、小学6年生及び中学生を対象に実施し、最優秀賞の作文を翌年8月発行の広報に掲載する。</li> </ul>						
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> PFI <input type="checkbox"/> その他の民間活用 ( )						
	事業手法選択の理由	本市は非核平和都市宣言都市であり、また、戦争の悲惨さ・平和の尊さを次の世代に伝えていくことは行政の責務である。						
	協働の取組	無	協働の取組内容					

指標	単位	目標値			指標として設定する理由
		H30年度	R元年度	R2年度	
平和関連行事の来場者数	人	100	100	100	平和意識の向上を図るうえで、重要な数値となるため。
被爆地への派遣人数	人	6	6	6	戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代へ語り継ぐうえで、重要な指標となるため。
後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由	
平和関連行事の来場者数	人	66	150	指標を達成することで、平和意識の向上に寄与するため。	
総合戦略における指標等	単位	基準値(年度)	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
		( )			
		( )			
		( )			

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
平和施策事業	総務部	秘書広報課	秘書広報班

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
平和関連行事の来場者数	人	100	69	100		100	
被爆地への派遣人数	人	6	6	6		6	

評価	平成30年度	事業効果	効果があった
		判断理由	戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代へ語り継ぐ機会として、写真展、映画会、長崎派遣事業、平和作文コンクールを実施したところ、各行事のアンケート回収率は低かったが、戦争の悲惨さ・平和の尊さを次世代に伝えていくことができた。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	今後も戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代へ語り継ぐ機会を提供し、平和意識の向上を図る。
	令和元年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	



事業(予算)名		部等名	課等名		班等名			
広報事業		総務部	秘書広報課		秘書広報班			
指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度		
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
第四次実施計画	広報印刷部数	部	19,200	19,200	19,200		19,200	
	ふれあい講座実施回数	回	30	30	30		30	
評価	平成30年度	事業効果	効果があった					
		判断理由	広報とみさとを編集・発行し、市民に対して行政情報を提供するため、広報紙の目標部数を発行することができた。また、市政情報を対外的に広めるため、定期的に記者会見を開催し、市政情報の提供を充実することができた。ふれあい講座は、より多くの市民に活用されるよう広報紙やホームページなどで周知をし、目標値に達することができた。					
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続					
		今後の方針の理由及び今後の予定	今後は、さらに見易く充実した広報紙面の検討や、より効果的な市民への情報伝達媒体を追求するとともに、定期的な記者会見を継続し、対外的に市政情報の提供に努めていく。					
	令和元年度	事業効果						
		判断理由						
		実績値を踏まえた今後の方針						
		今後の方針の理由及び今後の予定						
	令和2年度	事業効果						
		判断理由						
		実績値を踏まえた今後の方針						
		今後の方針の理由及び今後の予定						



事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
広聴事業	総務部	秘書広報課	秘書広報班

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
第四次実施計画	ふれあいミーティング参加者数	人	50	3	50		50
	定例相談実施回数	回	12	12	12		12

評価	平成30年度	事業効果	効果があった
		判断理由	定例相談会は目標値に達し一定の効果があったが、ふれあいミーティング(年2回開催)が1回中止になったため、実績値は3人であった。しかし、市民と行政との間で一定程度情報共有された。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	より多くの市民と情報共有が出来るよう、実施方法の改善や新たな周知方法の検討に努めていく。
	令和元年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	